



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センターの理念

私たちは、患者さまの人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者様中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供すると共に、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者様がより良い医療が受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



横浜医療センター7階からの富士山

第39号 目次

院長の言葉	1
地域医療連携	2
年男・年女	3
行事紹介	
YMA T(横浜救急医療チーム)連携訓練に参加して	4
今年も大正連合フェスタに参加してきました	
キャンドルサービス	
楓葉祭について	5
お知らせコーナー	
栄養管理室より	5
外来担当医表	6
シンボルツリーライトアップ	
クリスマスツリー点灯	7



発行 月：平成25年1月
 発行 行：独立行政法人国立病院機構
 横浜医療センター 広報委員会
 発行責任者：工藤 一大
 住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
 電 話：045-851-2621
 FAX : 045-851-3902
 URL : <http://www.yokohama-mc.jp>



当院携帯サイトはこちらから

院長の言葉

新年あけましておめでとうございます。

やっと冬らしい寒さが到来しました。この冬はノロウイルスによる感染性胃腸炎が大流行しており、また今年もインフルエンザの流行が懸念されております。皆様には健康管理に十分にご留意いただき、ワクチン接種を含め十分対策をとっていただきたいと思います。未知の新型インフルエンザ対策も横浜市と地域中核病院を中心にして準備を進めているところです。



院長 工藤 一大

昨年11月に学会参加のため福島県郡山市に行ってきました。学会場は2011年3月11日に発生した東日本大震災の後、一時被災者の避難場所となっていたそうですが、そのすぐ隣にはいまだに多くの仮設住宅があり多くの方々が生活をされているようで、復興にはまだまだ遠いのだということを感じました。昨年度は計画停電や節電を経験し、診療に影響が及ばないように院内の電気系統を見直し、工事を行いました。今年度は更なる節電、停電対策として都市ガスによる非常用発電装置の導入を検討しております。これが導入されれば都市ガスラインが通じている間は停電の間も病院としての機能を維持できるものと考えております。

大震災以後、当医療センターからは医師、看護師、事務、放射線技師を7回にわたり被災現地へ派遣してきましたが、今年度は医師2名、看護師2名、事務1名が災害派遣医療チーム(DMAT)講習を受け、DMAT 1チームを結成することができました。今後さらに充実した災害時医療支援活動ができるものと期待しております。

当センターは平成22年4月から横浜市南西部地域中核病院に認定され、救命救急センター、ICU、NICU・GUC、地域周産期母子センター、SCU、CCUと急性期病院としての機能を充実してきました。これらの機能を含め病院全体の機能向上と、より一層の医療の質、安全の向上を目指して行く所存です。当センターは全職員数も増加し大きな組織となってきましたが、職員間のコミュニケーション改善も医療の質、安全の向上に重要と考え、改善を図っていきたいと考えております。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」を目指して努力してまいりました。おかげさまで地域の診療所、病院との間の患者紹介率、逆紹介率も増加してきており、急性期病院としての当院の役割、使命を果たすべくますます努力してまいります。今後も当センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

地域医療連携

戸塚区医師会会長挨拶



戸塚区医師会長
菊池 英弥

明けましておめでとうございます。戸塚区医師会長の菊池です。

本医師会は戸塚区で医業に携わっている医師にて構成されています。会務の中でも重要なものは診・診、病・診、病・病連携として区内各医療機関が連携しあい地域医療に貢献するということです。

さらに行政(区福祉保健センター)も加わり、区民の健康を守るという横浜全市の中でも誇れる地域医療への仕組みが戸塚区では出来上がっています。中でも当医療センターは戸塚区の中核病院として高次医療に取り組んでおられ、また災害医療救護拠点として活躍なさっておられます。私共医師会員にとってはセンターはまことに心強い存在です。市民公開講座を含め教育・啓蒙に御尽力されているのも医療センターの特徴の一つです。

医療は日々進化しております。豊富な臨床実践例よりの医療論のたゆまぬ発信は戸塚区全体の医療レベルの向上になっていきます。しかし高次医療機関だからといって全ての患者がセンターに殺到されればセンターの本来の機能は麻痺してしまいます。このため医療センターと医師会は紹介制度を取り決めております。一次的には我々医師会「かかりつけ医」にお任せください。そこから必要に応じて私共はセンターに紹介します。センターでの治療が終了すればまた我々にお戻りください(逆紹介)。戸塚区では例え重症でも一人の患者の発見から治療そして後療法がスムーズに、また巷間言われるたらいまわしなど起こらぬように医師会と基幹病院との間で取り組んでいます。紹介・逆紹介相談窓口はセンターの地域医療連携室の方が担当なさっております。

また地域支援病院としての機能が充分働く様にセンターと区医師会は行政(区福祉保健センター、消防署、警察署)及び市医師会、近隣地区医師会(旭・泉・瀬谷・保土ヶ谷・西区)に参加をいただいて地域医療支援病院運営委員会を定期的を開催しております。地域の皆様のご要望があればセンター地域連携室にご一報下さい。運営委員会で検討させていただきます。

ここに新春にあたりセンターが区民の健康保持というその機能をますます発揮されますことを心より祈念いたしております。



年 男 ・ 年 女



ケースワーカー
畠山 友香

みなさん、明けましておめでとうございます。医療ソーシャルワーカーの畠山友香です。思えば前回の年女の年は、社会福祉士の資格を手に社会に飛び出した年でした。（当時は介護老人保健施設の支援相談員として着任しておりました。失敗ばかりで利用者さんの高齢者に慰められることもありましたが。）

今は当院の1階にある地域医療連携室で皆さんの悩みを一緒に考えさせていただく仕事をさせていただいています。

100人の患者さんがいらしたら100通りの悩みがあり、人生の奥深さと自分の未熟さを感じ、まだまだ勉強と経験が必要だと痛感する毎日です。これからも薄皮を1枚ずつ脱ぎながら大きくなっていくヘビのように、皆さんとの出会いを大切にしながら成長をしていきたいと思っております。



診療録管理士
田橋 啓順

新年あけましておめでとうございます。横浜医療センターで働くようになって、約2年仕事にも慣れ病院の全体像が見えてきました。新棟移転・電子カルテ稼働～3年を迎え様々な問題が詳らかになってきました。今年は、それらの問題を停る事なく一つ一つ解決できるよう努め、患者さんが安心して来院出来るような病院作りに尽力していきたいと思えます。

いい病院づくりの影に職員の労力が伴います。各部門方々の労力が適正に評価されるデータを提示できるよう、事務員として日々精進していきたいと思えます。



西5病棟
長嶋 美里

新年明けましておめでとうございます。

2012年は糖尿病看護ケア外来をやらせていただき多くの患者さんと出会い、多くの学びを得た一年でした。糖尿病は奥が深く、患者さん一人一人が全く違う病状、ライフスタイルを持ち、それにより効果的な療養行動は全て違います。2013年は1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病それぞれの専門的な知識を高め、看護力を高めてまいりたいと思えます。また看護師として横浜医療センターで働けることに誇りに思えます。健康な体であることに感謝し、2013年も大好きな横浜医療センターで頑張りたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願い致します。



西5病棟
東本 あかね

昨年は、新しい一年生も入職し、二年目として、メンバーシップをどうとっていけばいいかということを考えて、...と自覚を持って働くという意識が高まった年でもありました。また、少しずつ興味や関心を持ち、深めていきたいという気持ちも出てきて、自分がどういう看護をしたいかという考えも見えてきたような気がします。今年は三年目になり、メンバーとして働くだけでなく、リーダー業務も学び、リーダーシップをとる年でもあると思うので、周りを見て行動できるように日々努力していきたいと思えます。プライベートでは、大好きな旅行にたくさん行って楽しい思い出をいっぱい作りたいたと思っています。



西6病棟
坂 貴博

山形出身の私は、親の支援のもと生活をしており、20歳を過ぎてもどこか両親に頼っているところがありました。昨年、社会人となり横浜医療センターに就職して、慣れない都会生活と初めての一人暮らしで、料理・洗濯に看護師業務と何かと大変な一年でした。仕事面ではまだ、自分のことだけで精一杯なため、今年は少しでも、チームの一員として積極的に協力していけるように頑張りたいと思えます。



行事紹介

YMAT(横浜救急医療チーム)連携訓練に参加して

救命センター 看護師
菅原 志保

11月28日、私たちは横浜救急医療チーム(YMAT)として、消防部隊との連携訓練に参加しました。災害現場で救命するための医療チームの動き、他職種との連携など、実動時に、よりスムーズに活動が出来るためには、定期的な訓練はかせないと感じました。

当院も『災害拠点病院』として、今回のような院外での訓練への参加はもちろん、来るべき災害時に備え、院内全体での災害時訓練は絶対に必要であると思います。



今年も大正連合フェスタに参加してきました 西5病棟 長嶋 美里

平成24年12月2日(日)に大正小学校で開催された大正連合フェスタに参加しました。今年は脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の鈴木雪子さん、事務の大串さんと3名での参加です。大正連合町内会自治会・大正地区社会福祉協議会が主催されており、今年も多く協力団体の参加があり大盛況でした。その中で毎年楽しみにしているのが、スポーツ活動推進協議会の皆さまが寒い中作ってくださるつきたてのお餅です。たいへん美味しく寒さで凍えた体に凍みました。

今年も体脂肪測定、健康相談を行いました。みなさん若々しくて健康意識が高い方がたくさんいらっしゃいました。毎日ウォーキングやダンスなど運動習慣をお持ちで、はつらつとした70代、80代の方々をみて私も元気をもらったような気がします。



キャンドルサービス

看護学校 教育主事 梶原 順子

12月になり、街からはクリスマスソングが流れるようになりました。学生自治会では、日頃実習でお世話になっている入院患者さんへの感謝の気持ちを込めて、ほんのひとときでも心と和む時間を過ごしていただくことを目的に、クリスマス行事を企画いたしました。

今年も平成24年12月12日(水)18:30~19:00に学生たちは病棟に伺い、「あわてんぼうのサンタクロース」「赤鼻のトナカイ」の2曲を歌わせていただきました。また、フェルト地で作った「クリスマスツリー」と「靴下」など手作りマスコットをクリスマスカードとお配りさせていただいた際、皆様に温かく迎えていただいたことで、緊張していた学生たちもほっと安心した様子でした。ご協力いただき、ありがとうございました。

今後とも学生たちを温かく見守っていただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



今年、私たちの学校は50周年を迎えました。その年に実施する学校祭のテーマを何にしようかとみんなで相談した結果、造語ですが「結愛(ゆうあい)」にしました。

「結愛」には、看護学生として学習・地域・世界とつながる意味での「結」と愛護の心の「愛」を用いました。10月27日の学校祭の一般公開に向けて、在校生全員が一つになって準備をしてきました。お天気を心配する中、当日は晴天となり、多くの皆様に来校していただきました。また、昨年度バザーは中止していたのですが、バザーを楽しみにしているとの声が寄せられ、横浜医療センターの職員の皆様のご協力のもと、バザー開催に至ることができました。当日は列を連なる程の大盛況で、バザー用品が完売しました。売上金は40,100円となり、神奈川県を通し全額を東日本大震災の被災地に寄付致しました。多くの皆様に支えられて、無事学校祭を開催することができました。

ありがとうございました。どうぞ、今後ともご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



お知らせコーナー

栄養管理室より

栄養管理室長 長谷川 輝美

あけましておめでとうございます。皆様よい年末年始を過ごされましたでしょうか。「食べ過ぎて」、「飲み過ぎて」、「運動をしなかったから」と原因はさまざまでも「体重が増えてしまった!」という方が多いのではないのでしょうか。「メタボリックシンドロームの予防のために、増えてしまった体重は早めにリセットしましょう。また、コレステロールを多く含む肉も少し控えめにしましょう。」と、いつもは書かせていただくのですが、今回はちょっと違います。肉や油脂を節制して肥満や高コレステロール血症に気をつけていただきたいのは、主に中高年世代の方です。

高齢になると、太りすぎなどの栄養過剰症が心配な人よりも、低栄養状態に注意しなければいけない人が増えてきます。高齢者の低栄養は気づかぬうちに進んでいくことが多く、全身状態や気力、日常活動度の低下をもたらしたり、虚弱な高齢者では免疫能が低下して風邪を引きやすくなったり、軽い風邪をこじらせて肺炎になったりする可能性が高くなってきます。

昔から「年をとったら魚食を中心にして肉食は避けるべき」と、よく言われてきました。そういったこともあってか、平成23年国民健康・栄養調査でも、70歳以上の1人1日あたりの肉類や油脂類の摂取量は、男性で幼児の摂取量とほぼ同じ、女性では幼児の摂取量以下という結果がでています。

しかし、近年の研究では、動物性たんぱく質(肉や卵や乳製品)や油脂類をある程度しっかりと摂取している高齢者のほうが、植物性たんぱく質(大豆製品)が中心の高齢者に比べて病気になりにくいことが分かっています。



シニア世代の【低栄養を防ぐ食事のポイント】

1日3食抜くことなく、きまった時間にきちんと食べましょう。

多様な食品を食べましょう。

肉・魚・卵などを十分に食べましょう。

油脂類は不足しないように注意しましょう。

牛乳・乳製品を毎日摂取しましょう。食事で無理な場合は間食で補うようにしましょう。

全部食べられないときは、肉や魚・卵といった“おかず”から先に食べましょう。



高齢者の方は、「いろいろ食べる」「しっかり食べる」ことをこころがけて、「動物性たんぱく質」を効率的に体に取り入れ、栄養状態を高めながら日常活動度を高く保つことが大切です。

ただし、過度の摂取により糖尿病や脂質異常症などの基礎疾患を悪化させる可能性もありますので、主治医と十分相談する必要があります。

当院では、加齢に伴い食が細くなったり、食事が飲み込みにくくなったりして、思うように栄養がとれずにお困りの方やご家族への食事相談もおこなっております。ご希望がございましたら、医師にお申し出ください。

診療科・曜日	月	火	水	木	金	備考	
外来受付	小児科	鈴木 陽一 矢竹 曜子 山崎 真弓	菅井 和子 宮地 裕美子 内田 理	菅井 和子 園田 香里 山本 真由	鈴木 陽一 村田 宗紀 小堀 大河	福山 綾子 小林 慈典 矢竹 曜子	
	心臓血管外科	益子原 幸宏	休診日(手術日)	東館 雅文	東館 雅文	東館 雅文	木曜日は予約患者のみ(新患受付無し)
	形成外科	村上 秀威 川畑 武彦 鈴木 宙	日塔 寛昇 伊藤 りえ 日野 勝利	村上 秀威 門脇 純弘 鈴木 宙	日塔 寛昇 林 陸 伊藤 りえ	川畑 武彦 林 陸 門脇 純弘	※予約患者のみ。
外来受付	総合内科外来	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	※Aブロックで診察。午前のみ。
	糖尿病内分泌内科	小松 裕美子 高木 佐知子	高木 佐知子	宇治原 誠 小西 裕美(※)	宇治原 誠	交代医師	※午後5時以降は予約のみ
	神経内科	菅原 恵梨子	斎藤 麻美	上木 英人	岡本 光生	高橋 竜哉	▲:紹介状持参の方のみ
	腎臓内科	松下 啓	小宮 麻里子	山名 比早子	松下 啓		《循環器科新患当番医》*(月)第1・2[田中]・第3・4・5[岩出]
	呼吸器内科	後藤 秀人	休診日(検査日)	山川 泰	休診日(検査日)	榎原 基史	
	消化器内科	塩原 康正 (初診)	松島 昭三(初診) 鈴木 大輔	小松 達司(初診) 松島 昭三	松島 昭三(初診) 野登 はるか	交代医師(初診) 小松 達司	
	循環器内科	森 文章 内田 吉枝	岩出 和徳 網代 洋一(午前) 初診:交代(*)	岩出 和徳 初診:岩出 和徳	岩出 和徳 初診:岩出 和徳	岩出 和徳 初診:森 文章	
	リウマチ科	出口 治子	宮城 理美子 出口 治子	休診日 (検査日)	宮城 理美子 出口 治子	出口 治子 宮城 理美子	
	外科	清水 哲也 土屋 伸広 押正 徳	松田 悟郎 小暮 悠	三宅 謙太郎 田 健寛	松田 悟郎 清水 哲也 三宅 謙太郎	休診日 (手術日)	
	呼吸器外科		安藤 耕平 天野 新也 ◆交代医師	●交代医師 ○しびれ外来	◎向原 茂雄	坂本 和裕 天野 新也 藤津 和彦 市川 輝夫	ご紹介については外来日以外でも随時受け付けておりますので、直接ご連絡ください。 ◆:第1・3・5週(火)岡田 富 第2・4週(火)宮原 宏輔 ●:第1・3・5週(水)瓜生 康浩 第2・4週(水)谷野 慎 ○:午後のみ。PM3:00まで初診を受け付けています。 ◎:第5週は休診。 ※脳ドックの詳細はPM2:00～5:00の間に「医事 脳ドック受付」までお問い合わせください。
脳神経外科	休診日 (手術日)	手術日	脳ドック(※)	手術日			
外来受付	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸 手術日	
	眼科	清水 康平 木村 正彦 養 桂子	清水 康平 木村 正彦 養 桂子	清水 康平 木村 正彦 養 桂子	清水 康平 木村 正彦 養 桂子	休診日 (手術日)	
	泌尿器科	本田 直康 津村 秀康	奥野 紀彦	休診日 (手術日)	奥野 紀彦 津村 秀康	本田 直康 笹本 治子	水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。 至急診察が必要な場合は、電話をお願いします。
	皮膚科	宮田 聡子 宮代 正界	宮田 聡子 宮代 正界	休診日 (手術日)	宮田 聡子 宮代 正界	宮田 聡子 宮代 正界	
外来受付	心療内科	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	※月～金:初診の方は9時30分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診担当医以外の医師が診察します。詳細は脳神経科外来にお尋ねください。
	精神科	南 さわこ	古野 拓	大橋 茉莉子	山口 和己	内村 放	
	産婦人科	長谷川 瑛 窪田 与志	小笠原 良治 長谷川 美美子	窪田 与志	栗杉 輝彦 高木 博博	中村 秋彦 長谷川 瑛	初診には紹介状が必要。
外来受付	産科	窪田 与志	長谷川 美美子				
	歯科口腔外科	塩入 重彰 (再診のみ)	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	休診日 (入院手術日) ※急患はご連絡ください。	塩入 重彰 赤津 千絵 (午前初診・午後再診)	塩入 重彰 赤津 千絵 (再診のみ)	初診は、火・木曜日8:30～11:00、初診急患は随時受付(紹介状から直接連絡ください)、再診は完全予約制、再診急患は電話をお願いします。 初診:紹介状又は診療情報提供書を持参してください。 詳細については歯科口腔外科部長にお問い合わせください。
専門外来 (他の医療機関からの予約制)	小児科	アレルギー検査 シナス(10～3月) (矢竹) アレルギー(菅井) 感染症免疫・アレルギー (小松)(第1・3週) アレルギー(小堀) (第2・4週)	フォローアップ外来 (小堀) 腎臓外来(★) フォローアップ外来 (矢竹) アレルギー(小堀) (第1・3週) アレルギー(小堀) (第2・4週)	アレルギー(菅井) アレルギー(村田) 予防接種(交代制) 13:30～14:30 循環器外来 (小堀)(月1回)	フォローアップ外来 (福山) 1か月健診 (矢竹) 1か月健診 (交代医師)	アレルギー(▼) 神経外来(※)	▼:第1・3週(金)宮地 第2・4週(金)内田 ★:第1・3週(火)長濱 ※:第1・3・5週(金)本井
	整形外科		スポーツ整形外科(林)			スポーツ整形外科(林)	毎週15:00～16:00 予約のみ
	神経内科		頭痛外来 物忘れ外来				地域連携室を通して完全予約制
	糖尿病内分泌内科	糖尿病連携バス外来					
	腎臓内科	腹膜透析外来		腹膜透析外来	腹膜透析外来		
	看護部			糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来	糖尿病看護ケア外来 糖尿病フットケア外来		
	麻酔科	ペイン・緩和外来		ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	ペイン・緩和外来	地域連携室を通して完全予約制
	外科			スキンケア外来(※)	乳がん検診		
	耳鼻咽喉科				補聴器外来(午後)		
	循環器科			パースメーカー外来	睡眠時無呼吸 症候群外来		
	精神科		物忘れ外来				初診には紹介状が必要。1日2名の予約制。
	産婦人科	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	助産師外来 母乳外来(午後) 母親教室(※)	(※)午後のみ。夫立会教室は第2、4週土曜日、第3週日曜日。
	呼吸器科					アスベスト外来(坂本)	地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ) ※注①9:00～11:00 ※注②13:30～15:30
	放射線科	海津 久 注②		榎多 政治 注①	鈴木 涼子 注①		

初診受付: 平日 8:30～10:00
再診(予約外)受付: 平日 8:30～10:00
休診日: 土曜・日曜日・祝日・12月29日～1月3日
地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)
紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。
地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月～金 8:30～17:00)
TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)
FAX 045-853-8356

お知らせ 色つき部分()が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

編集後記

寒い冬がやってきて、風邪の流行出すシーズンとなりました。みなさんも、日々の体調管理に気をつけ、手洗い、うがいを励行していきましょう。

シンボルツリーライトアップ・クリスマスツリー点灯



横浜医療センター正面ロータリーにあるシンボルツリーのライトアップを、12月4日より今年も行いました。

また、それに併せて、外来ホールにおいて12月4日から12月26日までの間クリスマスツリーを設置いたしました。



(写真右)

戸塚は江戸時代には東海道の宿場として栄えており、旅籠の数も小田原に次ぐ所で江戸より10里、小田原まで10里と中間点にあるため、江戸を朝立ちして戸塚で泊まり翌朝小田原に向かって出発するので大変賑わった町でした。

又、現在の戸塚消防署とスルガ銀行戸塚支店の間は大商店が立ち並び、旅籠や遊廓等が点在していました。

